

『福島・日本中の親子が元気になるための実践型運動あそび環境づくり』

(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)



プロジェクトの実施体制

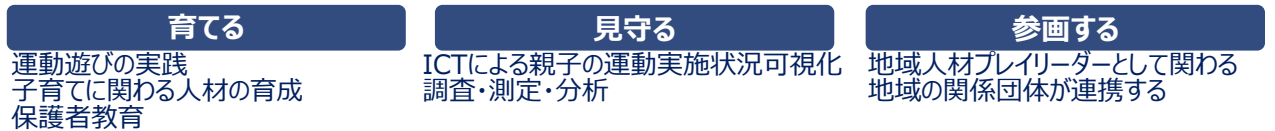
実証フィールド	福島県只見町、いわき市、二本松市、郡山市
代表団体	特定非営利活動法人ただみコミュニティークラブ*
構成団体	公益財団法人 福島県体育協会*、認定NPO法人郡山ペップ子育てネットワーク*、エヴリー合同会社*、株式会社 クレメンティア *

※「*」はSport in Lifeコンソーシアム加盟団体

プロジェクトの実施概要

ターゲット	子ども（未就学児～小学生低学年）、女性（子育て中の保護者）
ターゲットのスポーツ実施阻害要因	<p>①放射能の影響などに対する不安からくる屋外遊びに対する心理的ハードル</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の影響下において屋外活動を一部制限している期間が1年程度継続。 <p>②感染症等に対する不安から屋内遊びに対する心理的ハードルと運動実践機会の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者が安全に安心して遊びながら体を動かす場や機会の確保が困難。 これらの影響は、保護者である子育て世代にも生じており、心身の健康課題が生じている。 <p>③長期間運動機会や経験が制限されていることでの運動に対する苦手意識</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ・運動などをする機会が著しく減少した世代は、多様な動きを経験したり、楽しく運動する機会が少なく、運動に対する苦手意識をや基本的な動きの取得が不完全で子どもたちの多くに体力低下の状況あり。 <p>④新しい生活環境様式で安全・安心に配慮し楽しく十分な遊びの環境を構築していくためのノウハウが不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動あそびは、単に身体を動かすことだけではなく、子ども達のコミュニケーションや社会性といった生涯にわたって必要な 生きる力を育む上で重要。現状の環境下で可能な遊びの機会や場の作り方に対する知識が不足。

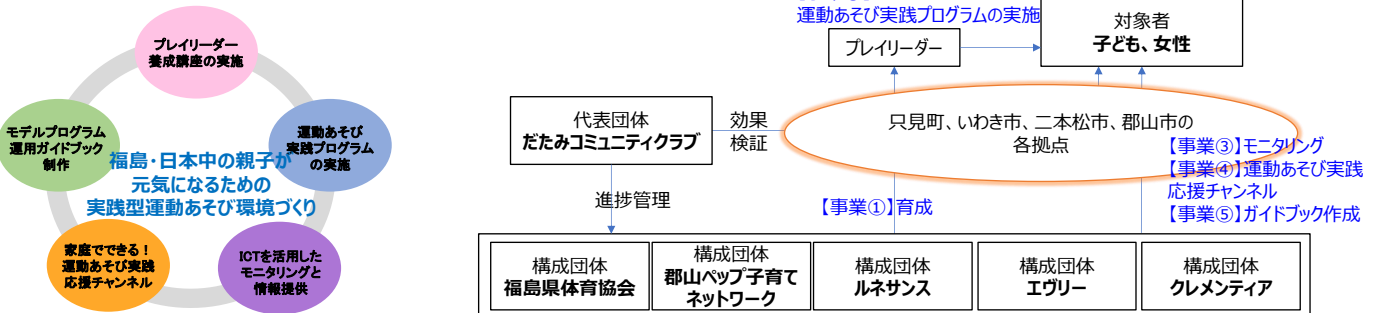
子どもの生きるカづくりとして、



を軸としたプロジェクトを行うことで、継続的に楽しく運動が実践できる場や機会の確保による心身の健康度の向上を目指し、『生きる力』を持った未来を担う子どもたちの健やかな育ちを支援する。

プロジェクト実施内容	<p>① 新しい生活様式に合わせた運動あそび実践者「プレイヤー」の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ オンライン型研修 ▶ 講師は、大学教授、医師、保育士、体育指導士等。 <p>② 新しい生活様式に合わせた運動あそび実践プログラムの実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 只見町、いわき市、二本松市、郡山市の各エリアの保育園、子ども園、総合型地域スポーツクラブ等にてそれぞれ3回程度実施。 <p>③ 子ども及び保護者の運動実施状況をICT技術を使ってモニタリングし情報提供できる機会の提供。</p> <p>④ 運動遊び実践応援チャンネル（WEB配信）を実施。</p> <p>⑤ モデルプログラム運用ガイドブックの作成。</p>
------------	--

【プロジェクトスキーム図】



①運動あそび実践者「プレイリーダー養成講座」

●100人が参加

- 11～12月にオンライン型研修（YouTubeでのアーカイブ配信）を実施。
 - 体育協会、スポーツ少年団指導者、総合型地域スポーツクラブのスタッフ、保育所・幼稚園、小学校などの先生、その他同様の取組をしている団体等を中心に100人が参加（計画：100人）。
- （講座概要）

講義1 いまの時代に必要とされるプレイリーダーとは（山梨大学 中村和彦教授）

講義2 多様な子どもたちの現場から子どもとの関わり方を考える

- ①保育の現場より（保育士 堀内亮輔先生）
- ②小学校の現場より（小学校教諭 岩田純一先生）
- ③地域の現場より（プレイリーダー 平山真恵美、篠田裕子、荒尾裕子）

講義3 遊学（あそびが学び）-からだとこころを育む関わり-

- ①子どもの育ちの現状と課題 ②あそびの重要性 ③子どもが主役のまちづくり
- （山梨大学 中村和彦教授、菊池医院（小児科医）菊池信太郎先生）

【講座配信概要】

プレイリーダー養成講座（講義一覧）

- 講義1 いまの時代に必要とされるプレイリーダーとは
- 講義2 多様な子どもたちの現場から子どもとの関わり方を考える
 - ①保育の現場より
 - ②小学校の現場より
 - ③地域の現場より
- 講義3 遊学（あそびが学び）-からだとこころを育む関わり-
 - ①子どもの育ちの現状と課題
 - ②あそびの重要性
 - ③子どもが主役のまちづくり

【配信チャンネル】

【事業評価アンケート】

②運動あそびプログラムの実施

●運動あそびプログラム実施中

- 11～1月に運動あそびプログラムを実施。
- 4拠点でそれぞれ1回実施済み（計画：50組100人、3拠点、各拠点3回）

実施場所	開催日時
只見町	11月28日（土）⇒実施済み 参加者数31人 12月19日（土）、1月23日（土）（各10:00～11:00）
いわき市	11月29日（日）⇒実施済み 参加者数7人 12月13日（日）、1月17日（土）（各11:20～11:50）
二本松市	11月27日（金）⇒実施済み 参加者数38人 12月18日（金）、1月15日（金）（第1部 各9:30～10:10）（第2部各10:20～11:00）
郡山市	11月27日（金）⇒実施済み 参加者数14人 12月18日（金）、1月15日（金）（各16:00～16:45）

「ここにこプロジェクト」
親子で運動あそび講座
開催のご案内

11月～2020
順次スタート
【2020年11月】
【2021年1月】

【講座実施日】
11月28日（土）
12月19日（土）
1月23日（土）

【講座内容】
1. 運動あそびの楽しさを知る
2. 多様な子どもたちと関わる方法を学ぶ
3. 遊学（あそびが学び）-からだとこころを育む関わり-

【運動あそび実施風景】



③ ICTを活用したモニタリングと情報提供

● 運動あそびプログラム参加者に配布して状況提供実施中

- 11～1月に実施。
- 運動あそびプログラムに参加した子ども及び保護者にICTウェアラブル端末を配布して、毎日の平均歩数、強度別運動量の割合、平均の運動量の変化の推移を可視化してモニタリング。配布した子ども、保護者にモニタリング結果をフィードバック。



④ 運動あそび応援チャンネル

● 運動あそび実践プログラム配信中

- 11/27から週1回（12月いっぱいまで）、プレイリーダーによる家庭でできる運動あそび実践プログラム「今週の運動あそび“これみんなで作ってみよう”」を配信（YouTubeでのアーカイブ配信）。

【運動あそび応援チャンネル概要】



【配信チャンネル】



【今後の実施内容】

① 運動あそびプログラムの実施

- 只見町、いわき市、二本松市、郡山市にてそれぞれ2回実施予定。（1月まで）

② ICTを活用したモニタリングと情報提供を継続

- 運動あそびプログラム参加者に対して引き続きウェアラブル端末を配布して、モニタリング結果のフィードバックを継続。（1月まで）

③ 運動あそび応援チャンネル

- 運動あそび応援チャンネルを引き続き配信。（12月まで）

④ モデルプログラム運用ガイドブックの作成

- 各取組を材料としてモデルプログラム運用ガイドブックを作成予定。（1～2月）

⑤ 効果検証

- 12月より順次効果検証を実施。
- アンケート調査及びウェアラブル端末で把握する活動量を踏まえて、子ども、保護者の運動量やスポーツ実施意欲等の事前事後変化を把握。